

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 永田 瞬	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>◆研究活動の概要</p> <p>繊維産業をフィールドとした調査研究を行った。高崎経済大学研究奨励費を財源として、岡山県倉敷市で2回(8月と2月)現地調査を行った。また、調査設計や報告書原稿の検討のため、法政大学大原社会問題研究所の労働政策研究会に5回参加した。ぐんま住民と自治研究所の記念講演会(11/15)、福祉国家構想研究会若手基本構想部会(12/26)などで調査研究に関わる中間報告を行った。これら研究成果の一部は、法政大学大原社会問題研究所発行のワーキングペーパー、および御茶の水書房から出版予定の大原社会問題研究所叢書に公表される予定である。それ以外には社会政策学会全国大会2回、その他研究セミナーに3回参加した。</p> <p>◆主要研究業績</p> <p>発表原稿</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「繊維産業における国内立地に関する一考察—学生服産業の事例研究」法政大学大原社会問題研究所編『持続可能な地域における社会政策策定にむけての事例研究 Vol. 3』ワーキングペーパー、No. 52、2014年4月、5-16頁。</li><li>・「桐生織物産業の現状と課題」法政大学大原社会問題研究所編『持続可能な地域における社会政策策定にむけての事例研究 Vol. 3』ワーキングペーパー、No. 52、2014年4月、104-127頁。</li><li>・「鉄鋼業・造船重機産業」法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑第84集』旬報社、2014年6月、183-185頁。</li><li>・「地域経済の持続可能な発展とは——中小企業の役割」柴田努・新井大輔・森原康仁編『図説経済の論点』旬報社、2015年1月、34-37頁。</li><li>・「なぜ賃金が下がり続けるのか？」柴田努・新井大輔・森原康仁編『図説経済の論点』旬報社、2015年1月、148-151頁。</li><li>・「繊維産業における外国人労働力の活用実態に関する調査報告」法政大学大原社会問題研究所編『持続可能な地域における社会政策策定にむけての事例研究 Vol. 4』ワーキングペーパー、No. 53、2015年3月、21-59頁。</li></ul> <p>口頭発表</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「経済のグローバル化と国民生活の再構築——繊維産業を事例に考える」ぐんま住民と自治研究所総会(群馬県高崎市福島公民館)、2014年11月15日。</li><li>・「繊維産業における人材育成の課題——外国人労働力の活用をめぐる」福祉国家構想研究会 若手基本構想部会(東京都文京シビックセンター)、2014年12月26日。</li><li>・「日本経済の構造変化をどう理解するか——『図説経済の論点』を手掛かりに考える」法律事務所コスモス勉強会(群馬県前橋市)、2015年3月25日。</li></ul> <p>◆教育活動の概要</p> <p>通常の基礎演習、演習Ⅰに加え、群馬県内の弁護士へのブラック企業問題にかかわる聞き取りや労働法のレクチャー(5/29 鈴木智之弁護士)、2・3年生合同ゼミ合宿(8/8-8/9 車山ハイランドホテル)、3年生のインナー大会参加(11/23 明治大学)、2・3年生による岐阜大学との合同ゼミ(12/6-12/7 松本青年の家)などを行った。また高崎経済大学経済</p>	

<p>学会の補助を得て、7月に『永田ゼミ活動報告集 2013』を発行した。</p> <p>それ以外には、経済学会主催講演会（11/20 神野直彦・東京大学名誉教授）と産業研究所主催講演会（12/18 金子勝・慶応大学教授）をゼミ学習の場所として位置づけ、事前に神野直彦『分かち合いの経済学』、金子勝・武本俊彦『儲かる農業論』を読んだ上で、講演会参加を促した。また、自主ゼミとして、有志による社会科学の古典勉強会を5回（4/30、5/16、6/11、6/27、7/16）行った。</p>
<p>2 その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・産業研究所製造業プロジェクト（代表・西野寿章教授）に参加。</li><li>・高崎経済大学経済学会 Intro のインタビュー（7/18）の実施。</li><li>・明和県央高校での模擬講義（10/21「ジーンズから考える経済のグローバル化」）。</li><li>・水口剛ゼミナール報告書のための座談会（12/11、藤本哲教授と一緒に）。</li><li>・読売新聞への取材協力（1/22 付群馬版にコメント掲載）。</li><li>・第20回FDフォーラム（3/1、同志社大学）に参加。</li></ul>
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>調査研究の成果として報告書以外の学術的価値のある論文を発表するための、準備を行っていく。狭義の専門分野のみならず、社会的に重要なテーマに関わる時事問題についての論考も準備・発表したい。さらに研究成果の発表の場所として、学会活動のみならず、地域団体との交流を継続的に進めていく。</p> <p>学習意欲を高めうる教育プログラムを実践していく。3年生のインナー大会参加が長期にわたることもあり、中だるみの感があった。その問題を克服するため、中間発表の場所として学内のゼミ交流や、プレゼン大会参加を位置付けていく。合同ゼミの位置づけについても学生との協議を進めていく。自主ゼミの位置づけについては教員の時間的制約もあり、当初の目標通りには進まなかった。やり方も含め新たな形態での再開を検討する。</p>